令和６年度　伊那市立西箕輪小学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された　B：ほぼ達成された　C：不十分であった）　自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された　b：ほぼ達成された　c：不十分であった）

学校教育目標	重点目標（中長期的目標）
○よく考えすすんでやりぬく子（知） ○体を鍛えたくましい子（体） ○美しさ温かさのわかる心豊かな子（徳）	＜学校経営ビジョン＞ あたたかい学校・学級づくりと、学び合いのある授業を通して、思考力・判断力・表現力を高め、自立した児童を育てたい。
	今年度の重点目標
	⑴きく・問う・学び合い 1　主体的な学習態度の育成　　2　知識・技能の習得 3　思考力・判断力・表現力の育成　4　特別支援教育の充実
	⑵遊び・運動・高め合い 1　自己健康管理能力の育成　　2　体力づくりの日常化と運動の習慣化 3　健康な心身を育む食育　　4　生命を守る保護・安全指導
	⑶あたたかい学校・学級 1　自己指導能力を培う生徒指導　　2　よりよい人間関係の構築 3　心を磨く人権教育・道徳教育　　4　インクルーシブ教育の推進

総合評価

○保護者に向けた学校評価アンケートでは、「お子さんは学校へ行くことが楽しいと感じていますか」の質問項目に対して「よくあてはまる・あてはまる」と答えた保護者が８５％であった。児童については、低学年児童の約８３％、高学年児童の約８８％が「楽しい」と答えている。一方、学校生活に馴染めない児童や、集団適応が困難な児童もおり、こうした児童に対するより丁寧な対応が求められている。今年度も、特に支援を必要とする児童への支援体制や保護者との相談体制を充実させながら、重点目標に沿って取り組みを進めてきた。「学校へ行くことが楽しい」と感じる児童の割合が更に増えることを願いながら、次年度もよりいっそうの取り組みを進めていきたい。

成果と課題	評価	改善策・向上策
⑴職員間で日々の授業を見合いながら、「きくこと」を大切に授業改善を行ってきた。学校評価アンケート「授業中、相手の話をよく聞いている」の質問に対し肯定的な回答をした児童は８５％を超えたが、「授業中、自分の考えを伝えている」についての肯定的な回答は６０％程度にとどまり、「伝える」「発表する」ことが課題となっている。	B b	○引き続き、「きくこと」を大切にした授業づくりを行っていく。子どもたちが自由に試行錯誤・対話できる授業環境をつくり、自分の考えをまとめる活動や他者に自分の考えを伝える活動を意図的に設定する。また、「伝える」「発表する」力が更に高まるように、学習機会や学習内容を検討していく。
⑵５年生対象の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、男子の握力以外のすべての測定において、全国・県の平均値を上回るか同等の測定値となり、体力合計点では、男女ともに全国平均を４ポイント程度上回った。	A a	○調査の結果を参考にしながら、現状の体力が維持されるように、体力づくりの日常化と運動の習慣化を継続する。また、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好き」という児童が増えるような体育の授業づくりをめざしていく。
⑶本年度も姉妹学級交流、副学籍交流、保育園との交流等を通して、異年齢や地域の仲間との交流を深めることができた。学校評価アンケートの「思いやりの気持ちをもって友達と仲良く関わろうとしている」という質問項目に対し、肯定的な回答をした児童は約９０％、肯定的な回答をした保護者は９５％となった。	A a	○今後も異年齢や地域の友達との交流を大切にし、思いやりの気持ちが高まるように学習や振り返り等を工夫する。また、学校全体であいさつや感謝を大切にする気運を高め、学校や児童会の活動の中でその充実を図っていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	○教育課程の編成	○教科横断的な視点での教育課程の編成がなされているか ○教育実践の質向上のためのPDCAサイクルの確立がなされているか ○校内外の人的・物的資源を活用する教育課程編成がなされているか ○思考力・判断力・表現力の育成がなされているか	○校内の異年齢交流や学校間交流を継続的に行いながら、生活科や総合的な学習の時間を通して思考力・判断力・表現力を育成することを念頭に置いて活動した。また、学校全体・各学年・学級において、校内外の人的・物的資源を活用した活動ができた。今後も学校・地域の実態にふさわしい探究課題を設定していく必要がある。	A b	○総合的な学習の時間については、学校の教育目標との関連を図り、地域の実態に応じてふさわしい探究課題を設定するとともに、地域のコミュニティースクールコーディネーターと連携しながら、校内外の人的・物的資源を更に活用していく。
		○教育課程の実施	○「きく・問う」を軸とした授業づくりや教育活動が行われているか ○授業のユニバーサルデザイン化されているか ○ICT活用教育は充実しているか ○家庭と連携した、家庭学習（自主学習）の習慣づけをすることができたか	○「きく・問う」を軸とした授業づくりについて研究を進め、実践することができた。授業のユニバーサルデザイン化については、さらなる検討が必要である。 ○児童アンケートの質問「自分から家庭学習に取り組み分からないことを聞いたり調べたりしながら学ぼうとしている」に肯定的な回答をした児童は約７０％であった。	A b	○特に通常の学級における授業のユニバーサルデザイン化に目を向け、校内研修の機会を設けたり、日常的な取り組みをしたりする。 ○引き続き、年２回の家庭学習週間を継続するとともに、学校全体として家庭学習のあり方についての検討をする。
	学習指導	○学校教育の基本	○児童は、学習したことや体験したことを生かして学ぶことができているか ○児童は、変化に積極的に向き合い、主体的に判断し、課題解決しているか。 ○児童は、多様な考えを受け入れ、協動的に学び、自分の考えをよりよくすることができているか	○児童に行った生活アンケートで、「授業中自分の考えを伝えている」と答えた低学年児童は約７５％、高学年児童は約４８％であった。「課題解決に向けて、互いの考えを伝え合う」機会をさらに設け、協動的な学びを推進していく必要がある。	B b	○主体的に判断し、課題解決をする学習場面を意図的に設定し、児童が「伝える」「きく」ことを意識しながら、多様な考えを受け入れ、協動的に学び、自分の考えをよりよくすることができることをめざしていく。
		○学習評価を通じた学習指導の改善	○児童は、学習したことや体験したことと学習活動等を比べたりつなげたりしているか ○児童は、主体的に判断し、課題解決の方法を見出しているか ○児童は、自分の考えをもち、学び合うことを通して、自分の考えを広げたり深めたりしているか	○児童生活アンケートで、「授業の内容がおよそ理解できている」と答えた低学年児童は、約８３％、高学年児童は約８８％、保護者は８２％で、いずれも肯定的な回答の割合が昨年度より高くなった。全国学力・学習状況調査の児童質問紙の中の、「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」についての肯定的な回答は約１５パーセントで、全国平均の約３０％を下回っているので、課題としていきたい。	A b	○個々の発達段階や学習の習熟度を的確に捉え、個別最適な学びの実現に向けた方策を探っていく。また、職員が自由進度学習についての研修を深め、必要に応じて自らの実践に取り入れていく。 ○引き続き、学習支援ボランティアやその他ボランティアの協力を得ながら、個に対応したきめ細やかな学習支援を進めていく。
	生徒指導	○お互いの違いを認め合うあたたかな学年、学級経営	○失敗が許され、安心して過ごせる教室、学校（人権教育）になっているか ○職員間の情報共有及び外部機関との連携により、チームで支援しているか ○いじめ等に対する迅速かつ適切な初期対応及びチーム対応ができているか	○いじめ対応マニュアルの改訂を行い、全職員で共通理解を図って事案に対応した。また、学校運営委員会や職員会の中に「児童理解」の時間を定期的に位置付け、必要に応じて、校内・校外関係者での支援会議を積極的におこなった。 ○今年度、児童が担任や校内職員に相談をする「相談週間」を年間計画に位置付けた。	A a	○引き続き「相談週間」を年間計画に位置付け、担任が児童から家庭・学校での様子、友人関係等について聞き取りをする。また、職員間の「児童理解」を大切にして、いじめ等に対する迅速かつ適切な初期対応及びチーム対応ができるように体制を維持していく。
		○配慮を必要とする子どもへの指導	○個に応じたきめ細やかな指導がされているか ○インクルーシブ教育の推進がされているか ○適切な学びの場の検討がされているか	○「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」をもとに、一人一人の教育的ニーズを把握し、校内・保護者・地域で連携し、支援することができた。また、校内支援委員会を定期的に開催し、児童の適切な学びの場を検討することができた。	A a	○特別支援コーディネーターや適応指導係を中心とした校内の相談・支援体制を維持し、外部の関係諸機関と連携しながら特に配慮を必要とする児童への指導・支援や家庭支援を行っていく。
学校運営	安全	○教育活動全般における安全対策	○児童の安全や健康について意識し、安全や健康を確保することができたか	○緊急時対応をより迅速におこなえるように学校危機管理マニュアルの見直しをした。 ○安全点検カードを見やすいものにし、室管理責任者、安全係、日直巡視、教頭巡視により複数の目で点検を行った。児童の健康管理についても、日常的に丁寧に行った。	A a	○全職員で学校危機管理や児童の安全・健康管理に対する意識を高く持ち、感染予防対策、児童の健康観察を丁寧に行うとともに、安全・健康管理に関する校内研修を継続する。 ○引き続き、安全点検を丁寧に行い、危険箇所・修繕箇所を直ちに改善する。
		○自分の命は自分で守る子どもの育成（安全教育・防災教育）	○児童自身が安全を意識し、安全を確保できるようにするための教育活動を行うことができたか	○安全協会、育成会、駐在所の方を招いての交通安全教室を開催した。 ○年３回の避難訓練、毎月の集団登下校等により児童の安全に対する意識が高まった。	A a	○交通安全教室、集団登下校、引き渡し訓練等について、開催の回数・日時・内容等を学校や地域の実情、児童の実態に合わせて検討していく。
	地域との連携	○家庭との連携	○学校・学年・学級だより、ＨＰ等による積極的な情報発信がされているか ○「顔の見えるＰＴＡ活動」を意識して連携ができているか	○定期的に学校・学年・学級だよりを発行したり、学校ＨＰを更新したりして、学校行事や児童の様子等を保護者に伝えることができた。学校評価アンケートでは、学校から家庭への情報発信について、約９６％の保護者が肯定的な回答をした。 ○ＰＴＡ組織の再編成をして会議出席者の精選をしながら、ＰＴＡの朝のあいさつ当番、安全ひまわり隊等の児童にかかわる大切な活動は、学校と家庭が連携して継続した。	A a	○今後もおたより、ＨＰ、メール配信システム等を用いて、保護者に学校や児童の様子が伝わるようにしていく。必要に応じて個々に懇談や支援会議等の時間を設ける。 ○学校評価アンケートにあげられた要望を参考にしながら、引き続き家庭と学校が連携して教育活動やＰＴＡ活動に当たっていく。
		○地域との連携	○学びの連続性を意識した幼保小中の連携がされているか ○西箕輪（ＣＳ）の人材、地域資源を生かした学校づくりがされているか	○幼保小連絡会や小中連絡会、来入児一日入学等を通して、児童・生徒理解を深めると共に、特別支援教育Co間の連携、適応指導についての連携も進めることができた。また、今年度は、中学生による読み聞かせや合同避難訓練・引き渡し訓練を行った。 ○年 2 回の小中合同研修会により互いに親睦を深め、教育活動について情報交換をした。 ○昨年度に続き、読書ボランティア、学習支援ボランティア、点字指導、性教育、情報教育等においてボランティア・外部講師の活用をすることができた。また、今年度新たに習字ボランティアとミシンボランティアを活用した学習を取り入れた。学校評価アンケートでは、約９０％の保護者が地域との連携について肯定的な回答をした。	A b	○引き続き中学校との連絡会・合同研修会を行い、小・中のスムーズな接続と更なる交流を推進していく。伊那養護学校との交流についても継続していく。 ○地域に開かれた学校、地域とともに歩む学校をめざし、今後も地域との連携を図っていく。外部講師やボランティアについては、必要に応じて西箕輪ＣＳコーディネーターに依頼をする。 ○安全ひまわり隊やＰＴＡと連携した見守り活動を継続する。

	研修	○校内研究の充実	○「単元を通してつけたい力」を明確化するための校内研修は充実しているか ○教科担任制を含めたチーム支援のための校内研究がされているか		○年間を通して、学級担任および専科教員による「１人１授業公開」を行い、互いの指導・支援について学び合うことができた。また、指導主事学校訪問による指導を受けながら、より質の高い授業をめざした授業研究を行うことができた。 ○教科担任については、音楽、理科、英語において専科教員の指導を行っているが、他教科についても、児童の実態に応じて検討していく必要がある。	A b	○今後も外部講師や指導者の協力を得ながら、教員間で授業を見合う機会を設け、より質の高い授業を追究していく。 ○教科担任制のあり方については、他校の実践を参考にしながら校内で検討し、本校の実情に合った形を模索していく。
		○校内研修の充実	○職員の資質・能力向上のための研修を積極的に行うことができたか （非違行為防止研修、ICT 教育の充実のための研修等）		○非違行為防止研修については、毎月計画的に位置づけて行うことができた。 ○ニュースポーツについての研修を年間計画に位置づけて行うことができた。 ○ＩＣＴ活用教育については、職員が更に研修を深め、学習の中での活用を進めたい。	A b	○非違行為防止研修については、今後も計画的に位置付けて行う。 ○ＩＣＴ活用・情報教育に関する研修、児童理解に関する研修(特別支援教育、適応指導等)を積極的に行い、職員の指導力の向上をめざす。